

【研究名】： DPP-4 阻害薬間での薬剤変更による効果の検討

【研究目的】

糖尿病治療薬である DPP-4 阻害薬は、糖尿病の薬物療法において広く用いられています。DPP-4 阻害薬を服用中の患者さんの中には、血糖コントロールが不良の場合に、他の DPP-4 阻害薬へ変更する例もありますが、DPP-4 阻害薬間で変更を行うことの有効性に関する詳細は明らかになっていません。そこで、当院における DPP-4 阻害薬間での薬剤変更の実施臨床データを用いて、その有効性に関して検討します。

【研究意義】

DPP-4 阻害薬を用いて薬物治療を行っている患者さんに対する、効果的な薬物療法を行うことへの貢献が期待できます。

【調査の対象となる患者さん】

2010 年 3 月～2014 年 12 月の間に DPP-4 阻害薬を変更し、かつその前後で 3 か月以上投与が継続されている患者さん

【方法】

調査の対象となる患者さんのカルテから、以下の項目を調べます。

性別、年齢、身長、体重、HbA1c(変更前、変更後 3 か月(10～16 週))、併用薬、変更の理由、肝機能、腎機能

【研究実施期間】

2015 年 10 月～2016 年 9 月

【患者さんの個人情報の管理について】

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて患者さんのプライバシーを守るよう努めています。結果の発表や出版に際しては個人が特定できるような情報は掲載しませんので、患者さんの個人情報が外部に漏れることはありません。

【研究実施体制】

研究機関： 愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

研究責任者： 教授 荒木 博陽

研究分担者：

准教授 田中 亮裕

副部長 守口 淑秀

副部長 田中 守

薬剤師 大島 幹弘

薬剤師 鈴木 雄太

研究支援員 中川 美菜子

【研究に関する問い合わせ先】

本研究からご自身の情報を除いてほしいという方は、下記の連絡先までお申し出ください。

また、本研究に関する詳細な資料を希望される方や詳細な情報を知りたい方は下記の連絡先まで連絡をお願いします。

研究責任者： 准教授 田中 亮裕

電話番号： 089-960-5731

e-mail: akiki@m.ehime-u.ac.jp

【研究成果】

異なるクラス間で変更を行った場合の HbA1c の平均変化量は有意に低下していました。DPP-4 阻害薬間で結合様式を考慮して薬剤変更を行うことは、糖尿病治療において有用である可能性が示唆されました。(第 26 回日本医療薬学会年会にて発表)